

竹の子川柳会

じょうろから出てくる水は雨みたい
 小二池内 麗羽
 赤ちゃんと心をつなぐほにゅうびん
 小二山田 清也
 水たまり雨がザーザーおどってる
 小三梶野 海斗
 天気の日遊び終わるとお茶を飲む
 小四瀨本ななみ
 雨あがり空を見あげる虹かかる
 小六清原 瑠依
 手をつなぐ心と体あたたまる
 中一清原 沙耶
 うれし泣き心の中は天気雨
 中三榎 美咲
 未来には大きい夢が待っている
 中三宮川 直輝
 怒られたゴクンと唾を飲み込んだ
 高一渋谷 裕紀
 雨季になり草が元氣を取り戻す
 高一山口はると
 子はみんな大きい背中見て育つ
 高一榎 美琴
 太陽の大きなめぐみうける木々
 高二藤森 柚樹
 通り雨そっと地面の臭いして
 高三濱松 和希
 キャンプ行く寝袋絶対持っていく
 高三榎 晋平

ひよし川柳会

三権の分立無視の自衛権
 熊本 忠真
 三番手少し氣楽に控え席
 宇津本アヤ子
 三本の矢で結束の和を諭す
 栗木 一郎
 どう読むの色紙さらさらサイン
 文字 男武志津江
 未練などさらさら無いと次の恋
 渡辺 光男
 嫁ぐ娘を送り肩の荷軽くする
 若宮 賢敬
 軽々と重量上げる細美人
 松本 立子
 軽く見え重い荷物を皆背負い
 水野すみこ
 他の人には言わぬ言わぬと軽い口
 金子すすむ
 一歳児背なに軽々祝い餅
 山本 雅之
 アフリカの地図国の名が出て来ない
 米子 達雄
 IT化マップ手の平世界観
 渡辺 照子
 カーナビに頼り楽しい一人旅
 宮川 柳酔
 新茶摘み初夏の香りを飲める幸
 川添 忠昭
 心配もジュースと一緒に飲み消化
 斯波 姫子

Andrew's Story [No.8]

「A Driver's License」

よく子ども達に「日本に来て一番驚いたのは何ですか」と聞かれます。最初はその返答にとっても悩みましたが、最近では「日本の道の狭さかな」と思っています。

今でも私は、アメリカの道、そしてアメリカの車社会のさまざまなことをよく覚えています。

アメリカはとても広いので、人々にとって自動車は徐々に必要なものになってきました。もちろん大きな都市に住んでいるなら、東京や大阪のように車は必要ありません。しかし、それ以外の地域に住んでいるとバスでは不便なので、車は「あったら良い」ではなく「なくてはならない」ものになります。これが「車社会」

の始まりではないでしょうか。

「車社会」で一番大切なのは、運転し始める時期です。アメリカではまず、15歳7ヶ月になると「運転許可書」がもらえます。これを持っていれば、大人と一緒にだて車を運転することができます。そして16歳になると、試験を受ければ「運転免許証」がもらえます。なので、16歳の誕生日はよく「Sweet Sixteen」（スイートシックスティーン）と呼ばれています。映画やテレビドラマではよく、16歳になると親から自分の車をもらい、少し自由な生活を満喫する子ども達の姿が描かれています。

日本と異なる「車社会」。どちらも良い点と悪い点がありますね。



鬼北町外国語指導助手
通称：アンディ
アメリカ合衆国アリゾナ州出身
※毎週水曜日、英会話教室を開講しています。